1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

企業・業界団体等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能を反映するため、企業・業界関係団体等からの意見を十分に活かし、カリキュラムの改善等の教育課程の編成を行う。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

上記基本方針に則り、校長の下に教育課程編成委員会を置き、全学科の教科構成について、実務における重要事項が該当する学科のカリキュラムに反映されているかを確認する。指摘を受けた内容について、各学科にて詳細検討を行い、改善項目を校長に報告する。校長は教育課程編成委員会委員にその旨を伝達する。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

2023年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
坂本　敏	中央動物専門学校　校長	2023年4月1日～2025年3月31日（2年）	
佐藤　洋子	中央動物専門学校　教務部長	2023年4月1日～2025年3月31日（2年）	
渡来　純如	中央動物専門学校　教員室長	2023年4月1日～2025年3月31日（2年）	
上野　弘道	公益社団法人日本動物病院協会（JAHA）専務理事	2023年4月1日～2025年3月31日（2年）	①
長谷川　龍太	株式会社AHB　取締役営業本部長	2023年4月1日～2025年3月31日（2年）	③
對馬　由希子	株式会社トーリーメイト　営業部　トリミング部門　主任	2023年4月1日～2025年3月31日（2年）	③
笹井　利浩	北千束動物病院　院長	2023年4月1日～2025年3月31日（2年）	③
溝口　健太	ワラビー動物病院グループ　取締役事務長	2023年4月1日～2025年3月31日（2年）	③
川口　貴之	社会福祉法人 泉陽会　新町光陽苑　施設長	2023.年4月1日～2025年3月31日（2年）	③
榎本　修	株式会社セラフ榎本　代表取締役	2023年4月1日～2025年3月31日（2年）	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回　6月・1月

（開催日時）
第1回　2023年6月20日（火）　14:00～15:30
第2回　2024年1月23日（火）　14:00～15:20

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
教育課程編成委員会より出された意見は、翌年度の教科構成に反映させる。

・生体販売、トリミング事業を展開している企業で、新卒者の採用について、最近の傾向として、ゴールデンウイーク明けから6月にかけて、離職する新卒者が見受けられる。コミュニケーション不足から、上司や同僚に相談せず退職を決める、さらには退職代行業者を経由して退職する者もでてきた。以前であれば、業務終了後に店舗、組織単位で飲食の場を設けコミュニケーションを深めることもできたが、現在はコロナもあり、また労働組合におけるハラスメントにも影響してくるため安易に誘うことはできない。壁に直面したとき前に進めず、社会人としての経験を積む前に退職の決断をしてしまう若者が増えたということを痛切に感じている。
・運営計画の7.（3）動物共生関連科イ①コミュニケーション能力及び社会人力の向上とあるが、愛犬美容関連科でもカリキュラムがあれば教えていただきたい。
⇒動物共生関連科では動物共生環境コーディネーターの資格取得のカリキュラムがあり、知識、技術、技能の習得のみならず、人の話を聞き、咀嚼・分析をし、フィードバックすることのできる人材育成のための授業を取り入れている。愛犬美容関連科のカリキュラムとしては、企業研究という科目の中で、卒業生を招聘し接客を含めコミュニケーション能力の向上を目指した授業を行っている。
・人が苦手だが動物が好きでトリミングをしているという学生が多いと感じるが、トリマーは8割以上が接客業であるという自覚を持つ指導を在学中にしていただきたい。
・トリミングサロンではスピードトリミングに力を入れ始めている。トリマーの自己満足ではなく、犬の負担軽減のためスピードを意識してトリミングをしている。学生にはインターンシップ等で複数回足を運んでいただき、就職する前に学校と現場とのギャップを体験していただきたい。
⇒インターンシップをいかに活用できるかが重要であり、互いのミスマッチがないようご提案いただいた通りにしていきたい。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習・演習等は専門学校教育の根幹をなす重要なものである。よって、常に最新の技術を指導する必要があり、
そのために学校と企業等が密接に連携した体制を築き、より実践的な職業教育となるように努める。
連携を行う企業とは、職業教育協定書（教育事業受託契約書）を取り交わし、契約の趣旨に則り実践的な職業教育を行うものとする。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

上記基本方針に則り、次の項目について連携を行う。
①カリキュラムの作成　②講義及び実習の実施　③講義・実習教材の作成
④成績評価及び進級審議等に関する助言　⑤その他の実習運営上に必要となる事項

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
動物美容実習	動物美容実習を通じてグルーミングの基本から最新の技術を取り入れた応用までを学び、トリマーライセンス合格を目標とする。	株式会社ペピカ 株式会社X.O
一般教養	社会人として必要な一般知識、人間性の教育を学ぶ。	株式会社ラ・デタント
販売小売学	小売業の役割や法令・接客販売の技術や顧客心理などの基礎知識を学ぶ。	イー・マネージ・コンサルティング協同組合
経営学	経営という名の経験額を学び、同時にその必要性、有利性も学び、実務に役立てる。	イー・マネージ・コンサルティング協同組合
企業研究	さまざまな商品知識や接客態度を幅広く学び、ショップでの作業やお客様へのアドバイスがスムーズに行えるよう学習する。	株式会社スタンダード
POPデザイン演習《必修選択一般科目》	POP広告の目的や役割を学び、POP広告クリエーターの資格取得を目指す。	日本POPサミット協会

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

「教員等の研修に関する規程」により、本校の教育職にあるものは、各自が担当する授業の分野に応じ、企業等と連携の上で、高度化、多様化する理論及び新技術等について研修に努めなければならない。
校長は、教育職にある者に対し、教員の業務経験や能力を勘案し、日常の業務を通じて必要な研修を命令する。また、事前に計画し、校長に承認を得た者は企業と連携した研修を認めている。

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「教職員研修会」（連携企業等：一般社団法人全国動物専門学校協会）
期間：令和5年8月　　対象：全教員
内容：全国動物専門学校協会における検定関連の確認、意見交換

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教授力向上研修」（連携企業等：専門学校コンソーシアムTokyo教育の会）
期間：令和5年8月3日・令和5年8月10日　　対象：担当教員
内容：教員としての資質向上、及び教授力向上を目的とする。

研修名「インストラクショナルデザイン研修」（連携企業等：専門学校コンソーシアムTokyo教育の会）
期間：令和5年8月22日　　対象：担当教員
内容：教員としての資質向上のため、授業設計方法を習得する

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「教職員研修会」（連携企業等：一般社団法人全国動物専門学校協会）
期間：令和6年8月　　対象：全教員
内容：全国動物専門学校協会における検定関連の確認、意見交換

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教授力向上研修」（連携企業等：専門学校コンソーシアムTokyo教育の会）
期間：令和6年8月　　対象：担当教員
内容：教員としての資質向上、及び教授力向上を目的とする。

研修名「インストラクショナルデザイン研修」（連携企業等：専門学校コンソーシアムTokyo教育の会）
期間：令和6年8月　　対象：担当教員
内容：教員としての資質向上のため、授業設計方法を習得する

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、

（1）学校関係者評価の基本方針

学生が質の高い実践的な職業教育を享受できるよう、学校運営の改善と発展を目指すため、中央動物専門学校運営指針に則り自己評価を実施する。
実践的な職業教育を目的とした、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成の適切さ等について評価を行うことが目的となる。
また、卒業生・企業・業界団体等の学校関係者を選任し、自己評価結果についての改善に向けた専門的な助言を受け、組織的・継続的な改善を図る。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	①理念・目的・育成人材像は定められているか
（2）学校運営	①目的等に沿った運営方針が策定されているか
（3）教育活動	①各学科のカリキュラムは体系的に編成されているか
（4）教育成果	①就職率の向上が図られているか
（5）学生支援	①進路・就職に関する支援体制は整備されているか
（6）教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
（7）学生の募集と受け入れ	①学生募集活動は、適正に行われているか
（8）財務	①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ③財務について会計監査が適性に行われているか ④財務情報公開の体制整備はできているか
（9）法令等の遵守	①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ②個人情報に関し、その保護の為の対策がとられているか ③自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ④自己評価結果を公開しているか
（10）社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
（11）国際交流（留学生）	①留学生の受け入れについて戦略を持って国際交流を行っているか ②留学生の受け入れ、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ③留学生の学習支援について、適切な体制が整備されているか

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

① 美容関連科の講義を行っているが、本校には非常に元気な学生が多い。今後も個々の能力を伸ばしてあげたいという思いである。
② 自己評価は適切と判断する。動物看護師資格が国家資格化したことで、真面目に授業を受けている学生が増えたという印象が強い。また、世の中全体に言えることでは、若者が外に出ていくという活力が減ってきていると感じており、実社会や現場との繋がりを持つ機会が少ないため、現実的なところが見据えられていないと感じられる。評価項目の中のボランティア活動などで、学生を積極的に外に出すような機会が与えられると刺激になり、日頃の勉学向上にも繋がるであろうと思われる。
⇒新型コロナウイルスによる行動制限も解除されており、学生には積極的にボランティア活動の紹介をしていきたい。
③ 現在は学生を受け入れる立場であるが、過去には教育の現場に携わっていた者として、愛玩動物看護師試験において数名不合格者が出たことについては残念ではあるが、専門学校卒業者は大卒者と比較しても十分に実践で働ける実力を持っており、より積極性が高いという印象を受ける。ペーパーのみでは測れない素養、数値があると感じており、実践的な教育を生かされていた本校の方針の顕れであると感じている。学生には自分の夢を叶える仕事に就けるよう頑張ってほしいと思う。資格取得率の向上については十分な評価であり、他の評価についても適切であると判断する。
④ 評価は適切と判断する。他校と比較し本校の学生の質は高いと感じている。今後も挨拶をはじめとしたマナー指導を継続していただきたい。
⑤ 店舗では猫関連の問い合わせが増えているため、キャットグルーミングの強化にぜひ取り組んでいただきたい。
⑥ 保護者の立場として、評価は適切と判断する。本校の教員の指導においては、学生を社会に出すサポートがしっかりされていると感じられる。愛玩動物看護師を目指し、日々頑張っている子供達を見て、動物の命を預かることを学ぶというのは大変なことだとつくづく感じている。今後ともよろしくお願いします。
⇒委員としてだけではなく、保護者としてのご意見があれば、いつでもお寄せいただきたくお願いいたします。
⑦ 地域の愛犬家、愛猫家として、評価は適切であると思われる。職場体験では中学生の受け入れ、特別養護老人ホームには犬を連れて動物介在活動を行うなど、協力に感謝している。近隣からのクレームについては、現代の若者を預かる以上、また犬も飼育しているため、致し方無いことである。問題はクレームに対して迅速に対処できているかということだが、本校はクレーム対応体制は整っているため、学校運営におけるコンプライアンス体制の整備の評価が3になってはいるが4でも良いと思われた。
⑧ 令和4年度の学校評価は、すべて適切であると判断する。学校を取り巻く環境は凄まじく変化している。特に少子化の影響で、専門学校入学者も減少してきているが、今後どのような方向で学校運営をされていくのか、先を見据えたものを発信できれば、学校の魅力も広がっていくと思われる。
⑨ スクールに比べ技術力のレベル低下が危惧される。専門学校は実習に割く時間が限られている。教育活動の中で教員の資質向上の評価が3であったが、学生を牽引する教員の資質向上をする努力をしていかなければならないと感じる。
⇒学校はカリキュラムと資格取得への対応等で、実習時間数を割かなければならないというジレンマもある。また教員の資質向上についても、頂いたご意見を真摯に受け止め、努めていきたい。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

2023年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
阿良田　由紀	東田端自治会長	2023年4月1日～2025年3月31日（2年）	近隣・地域
大野　公嗣	一般社団法人　全日本動物専門教育協会　専務理事	2023年4月1日～2025年3月31日（2年）	業界団体
田中　　淳	中央動物専門学校　卒業生	2023年4月1日～2025年3月31日（2年）	卒業生
塚本　知加江	中央動物専門学校　保護者	2023年4月1日～2025年3月31日（2年）	保護者
小山田千秋	株式会社スタンダード　オールペット事業部　取締役	2023年4月1日～2025年3月31日（2年）	企業
飛高　健太郎	タロウ動物病院　院長	2023年4月1日～2025年3月31日（2年）	企業
鹿野　正顕	株式会社アニマルライフ・ソリューションズ　代表取締役	2023年4月1日～2025年3月31日（2年）	企業

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

（ホームページ　・　広報誌等の刊行物　・　その他（　　）　）

https://www.chuo-a.ac.jp/guide/pdf/assessment_ofc_2019.pdf　毎年10月上旬

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関す

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

概ねホームページで公開しているが、学校行事等に関しては適宜、ブログにて情報公開を行う。
特に関連する企業等及び外部講師に対しては、年度開始にあたり会議を開催し、その際、校長から学校概要・運営指針等を説明し、実務教育及び教員研修における連携依頼や学生の就職・研修先の紹介の依頼、様々な教育活動の情報公開も行う。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	①教育理念 ②教育方針 ③学校概要（理事長名、校長名、所在地等）
（2）各学科等の教育	①修業年限・定員 ②学科の特徴、実習内容 ③カリキュラム、時間割 ④資格取得 ⑤卒業後の進路
（3）教職員	①教員紹介 ②教員数
（4）キャリア教育・実践的職業教育	①実技・実習を中心とした職業教育への取り組み ②企業等と連携した校外実習（インターンシップ）
（5）様々な教育活動・教育環境	①教育施設の紹介 ②学校行事のスケジュール ③学校行事の報告 ④その他活動の報告
（6）学生の生活支援	①学生寮の紹介 ②資格取得支援 ③就職支援
（7）学生納付金・修学支援	①学費・諸費用 ②奨学金制度 ③学費減免制度
（8）学校の財務	①計算書類（資金収支・事業活動収支・賃借対照表・収益事業） ②監査報告書（監事・独立監査法人）
（9）学校評価	①自己評価・公表 ②学校関係者評価・公表
（10）国際連携の状況	①留学生の受け入れ ②留学生の学習支援
（11）その他	①校有動物の情報 ②学友会・同窓会の情報

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
ホームページ　（URL:https://www.chuo-a.ac.jp/index.html）